

II

基本構想

Grand Design

1 まちの将来の姿

1) 将来像

本町は町の面積も小さく、人口規模も決して大きくはありません。しかしながら古代から蓄積された文化や、のどやかな人々の暮らしは、本町特有のものであり、次の世代へ継承していくべき貴重な財産です。

一方、「地方の時代」を見据えた中で、本町の依然として続く人口減少や、定住性の弱まりに対して、新たなまちの魅力と活力を再活性化させていくことが、今強く求められています。

そこで、今後のまちづくりの課題を踏まえ、次期 10 年間をめざしたまちづくりの将来像は次のように定めます。

小さくてもキラリ光る交流のまち あんど

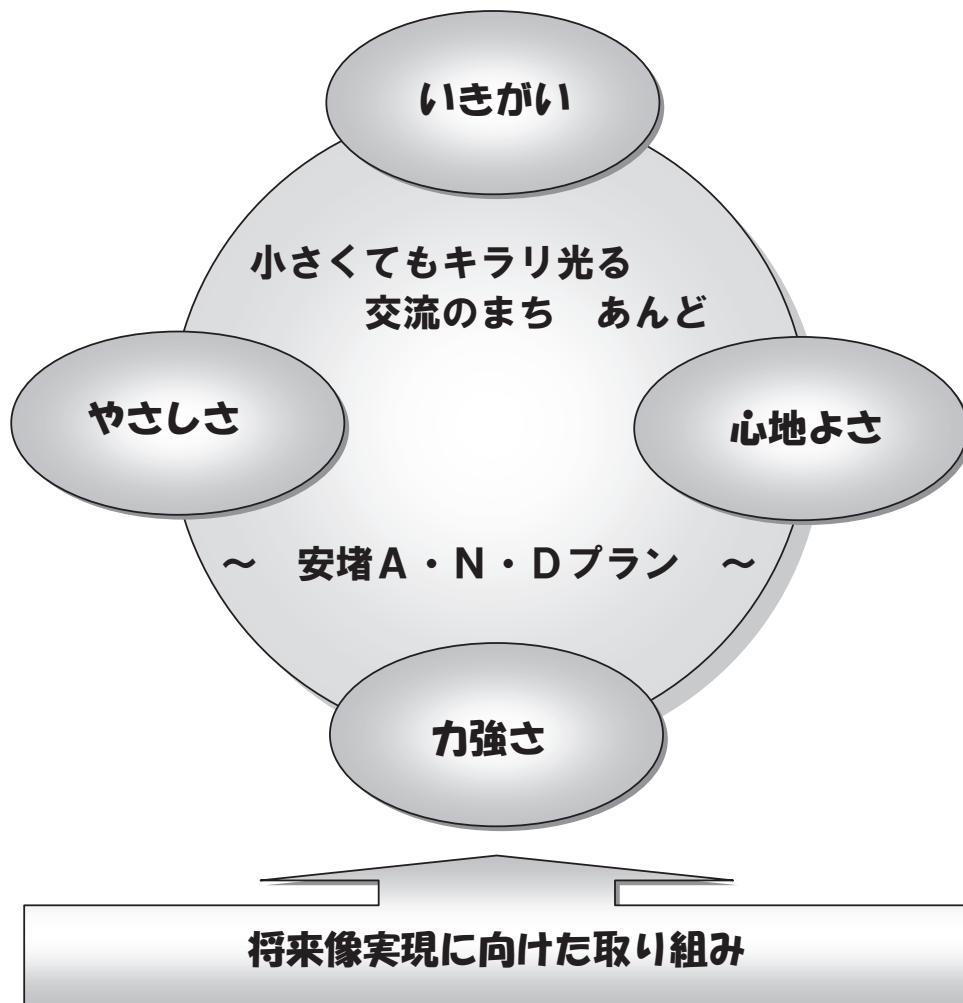
～ 安堵 A・N・Dプラン ～

この将来像の意味するものは、とても小さな町であっても、住民一人ひとりが輝き、まちづくりの主演となり、生涯にわたって自己実現を図っていけるまちをめざす考え方です。

「キラリ光る」とは本町は近代陶芸の巨匠、人間国宝の富本憲吉氏や奈良県の近代史に燦然と残る今村勤三氏が生まれ育ったところであり、また、飛鳥時代には、聖徳太子と深く関わりを持つ町でもあり、光り輝いた人材を輩出した町であります。また、伝統産業「灯芯」とも連動させた表現で、「交流は」は新たなインパクトであるスマート I C 等を活用して、観光・交流や新規産業立地等を図るとともに、住民が交流しあい支え合うまちづくりを意味しています。

なお、計画の愛称とした「A・N・Dプラン」とは安堵固有の文化を継承・発展させていくことを意味した言葉です。また、「あんど＝AND」とも表現でき、それをもじって住民にも親しめるプランでありたいというものでもあります。

まちづくりのテーマについては、これまでの計画をベースとして新たに時代に即した施策を展開していきます。キーワードは次の4つとし、これらの施策全体を推進していくための行財政等の体制づくりを「将来像実現に向けた取り組み」として下支えしていく考え方です。



2) 将来人口

まちの人口としては、「定住人口」と「交流人口」の考え方があります。定住人口とはまさに定住する人々、いわゆる住民となります。また、交流人口とは、本町に様々な目的で来訪する方々です。

定住人口については、現在の人口の動きも鑑み、目標人口として次のように設定します。

現況（平成22年）	8,030人			
将来（平成33年）	7,600人			

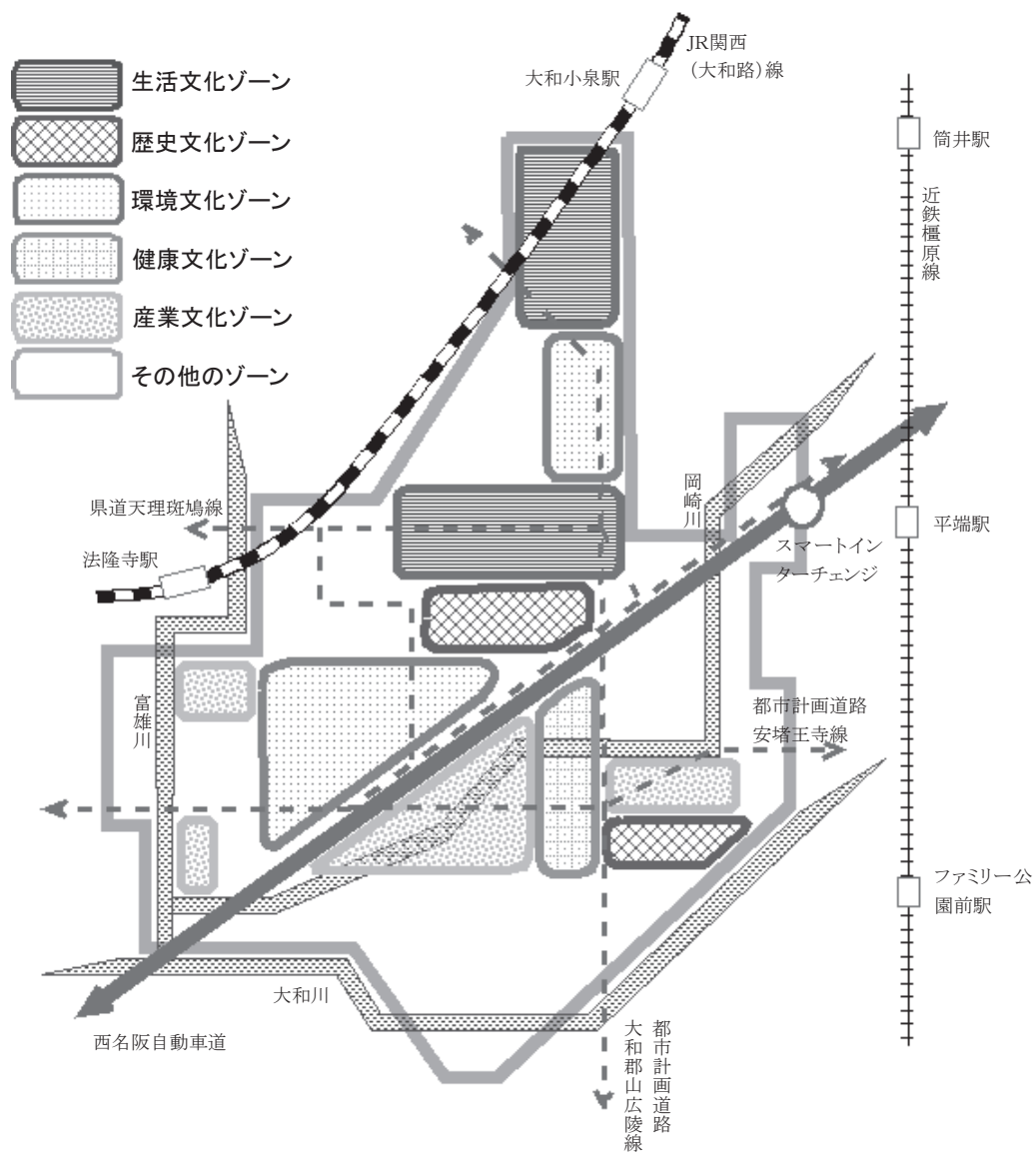
	平成22年		平成33年	
	人口	構成比	人口	構成比
0～14歳	831	10.6%	700	9.2%
15～64歳	5,291	66.4%	4,400	57.9%
65歳以上	1,908	23.0%	2,500	32.9%
合計	8,030	100.0%	7,600	100.0%

一方、交流人口については、様々な来訪が想定されます。歴史民俗資料館といった歴史・文化的な施設への来訪だけでなく、スマートICの開設等により、働き、消費等含め、新たなまちへの来訪を促進していく必要があります。現段階においては、厳密な交流人口の基礎となる数値が設定できていませんので目標数値は掲げませんが、今後、定住人口と併せ、交流人口の定量化できる方法を構築していきます。

3) 土地利用の方向

土地利用については、次の6つのゾーンを基本とし、土地利用の特性を踏まえた整備を促進していきます。

＜安堵町土地利用構想図＞



生活文化ゾーン

この地域は、役場・トーク安堵カルチャーセンター・総合センターひびきなどの行政施設をはじめ各種コミュニティ施設などのまちの機能が集中する生活の拠点として位置付けるとともに、まちづくりのマネジメント拠点としての機能強化を図ります。

歴史文化ゾーン

この地域は、本町のルーツを象徴する地域でもあり、文化財や歴史的遺産、また美しいまちなみを保全・修復し、後世に残し、本町の個性を輝かせるとともに、来訪者との交流機能の強化を図ります。

環境文化ゾーン

この地域は、農業を通じて自然との共生を学ぶとともに、本町ののどやかな空間を形成する重要な生産緑地空間と位置付け、住民を中心に美しい郷土づくりを推進していきます。

健康文化ゾーン

この地域は、住民や町外の人に対する健康づくりの拠点として位置付け、公園や体育館などを利用して心身ともに健康になるフィールドとして利用を促進していきます。

産業文化ゾーン

この地域は、今後の産業の振興の拠点として位置付け、とりわけスマートインターチェンジの開設を有効に活用し、新たな産業の創出と、就業の場の確保に努め、まちづくりの活力を高めていきます。

その他のゾーン

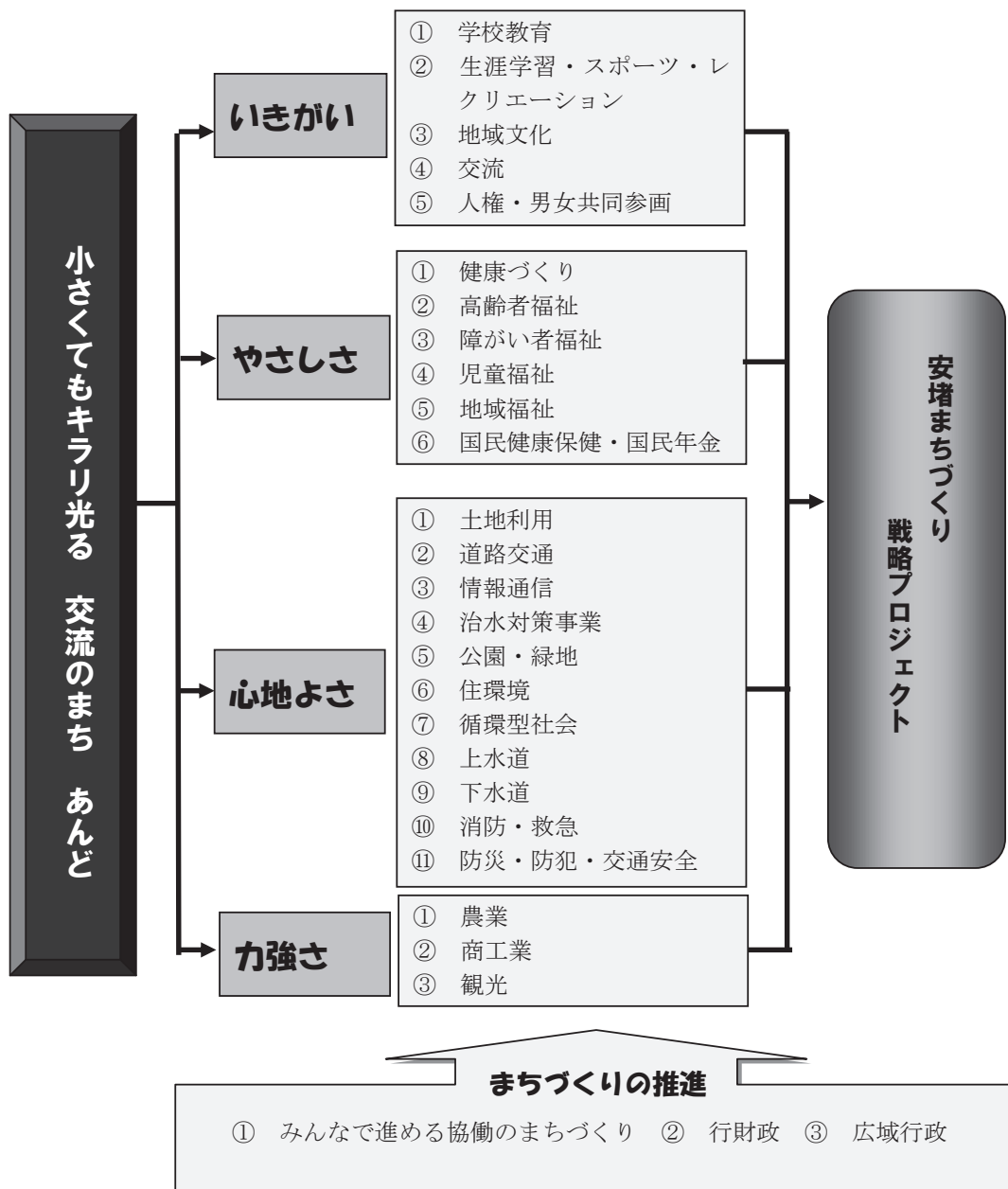
この地域は、住宅地他、河川や緑地等によって構成される空間で、本町の背景ともなるところです。快適で住みよい居住環境や産業振興等の基盤的な整備を進めていきます。

2 施策の大綱

1) 施策の体系

将来像である『小さくてもキラリ光る交流のまち』を達成していくための施策の体系は次のものとします。

まちづくりの4つのテーマは、全ての政策に関わってくるものですが、最も主要な関連をもつものとの関係で体系化しています。



2) 施策の大綱

いきがい ～ 個性輝く人が育ち、活躍するまちを創る ～

本町は歴史・文化や自然などのかけがえのない地域資源をもつまちです。子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージの中で、学び・育ち・交流し合い、一人ひとりが輝ける環境の整備に努めます。

また、芸術や文化活動を高め、心豊かで創造性溢れた人間形成を推進していくとともに、互いの人権を尊重し、男女ともに参画できる社会の実現をめざします。



個性が輝く人が育ち、活躍するまちを創る	① 学校教育
	② 生涯学習・スポーツ・レクリエーション
	③ 地域文化
	④ 交流
	⑤ 人権・男女共同参画

やさしさ ～ 健やかで笑顔のあるまちを創る ～

生涯元気で暮らせるよう、保健・医療の充実を図るとともに、高齢者や障がい者、あるいは社会的な支援を必要とする人達を地域全体で支え、町民一人ひとりが、生きがいと幸せ感を持ち、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

また、住民みんなで、次世代を担う子どもを安心して産めて、かつ育てる環境づくりに努めます。



健やかで笑顔のある まちを創る	① 健康づくり
	② 高齢者福祉
	③ 障害者福祉
	④ 児童福祉
	⑤ 地域福祉
	⑥ 国民健康保健・国民年金

心地よさ ～ 美しく住みやすさのあるまちを創る ～

落ち着きとのおやかな環境に恵まれた本町の特性を活かし、潤いがあり、快適な生活の舞台づくりを進めます。

また、生活の舞台としての基本的な条件である交通、上・下水道等の生活インフラおよび商業施設の基盤条件を整備するとともに、消防や地震等の災害対策が整った安全に暮らせるまちづくりを推進します。



美しく住みやすさの あるまちを創る	① 土地利用
	② 道路交通
	③ 情報通信
	④ 治水対策事業
	⑤ 公園・緑地
	⑥ 住環境
	⑦ 循環型社会
	⑧ 上水道
	⑨ 下水道
	⑩ 消防・救急
	⑪ 防災・防犯・交通安全

力強さ ～ 活力と夢を育むまちを創る ～

本町の基幹産業である農業の付加価値を高めるとともに、農業公園等の整備を含め観光・交流産業との連携を高め“安堵ブランド”の形成に努めます。

また、スマートインターチェンジの開設効果の受け止めを含め、地産地消のまちぐるみ運動を推進することにより、第1次産業のみならず、第2次産業、第3次産業の振興を促進し、雇用環境の充実を推進します。



活力と夢を育むまちを創る	① 農業
	② 商工業
	③ 観光

3 安堵まちづくり戦略プロジェクト

1) 戦略プロジェクトとは

戦略プロジェクトとは、将来像を達成していくために、リーディング的な役割を果たす事業と位置づけます。

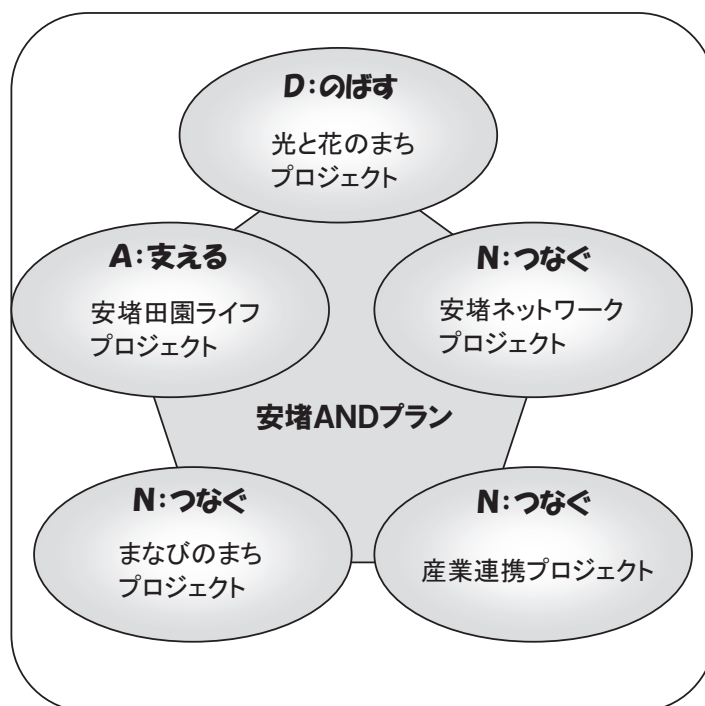
この事業は、単体の施策ではなく、また、単一部門や課・係で取り組むものでもありません。

さらに、行政単独の事業ではなく、住民や民間事業者との協働、さらには広域的な地域連携により推進していくものです。

ここでは、安堵町を故郷として住民が愛し誇りを持つとともに、個性的で魅力あるまちづくりを推進するために「5つのプロジェクト」を提案しています。

なお、ここでは、『(仮称) 安堵 A・N・D』プランとして、A=Assist : 支える、N=Network : つなぐ、D=Develop : のぼす、という考え方からのプロジェクトとなっています。

2) 戦略プロジェクトの内容



★ 光と花のまちプロジェクト <安堵の自然の風景のすばらしさを伸ばす>

安堵町は大和川をはじめとする美しい川の流れと緑豊かな田園風景に恵まれ、これまで公園整備を推進し、“自然と調和したまちづくり”を進めてきています。

この自然と調和したまちづくりをさらにのばしていくために、その象徴ともなる安堵中央公園を設置いたしました。さらに、「彩り」を添えるものとして“光と花のまちプロジェクト”を構想するものです。町の花木として「ナデシコ」「テイカカズラ」「モチの木」が指定されています。この指定花木で1年を通して花や実がなる組み合わせも可能であり、安堵町の景観として町の公共施設を中心に育成していきます。

また、和ろうそくに使われる「灯芯ひき」は安堵町の伝統産業であり、「大とんど」は光の一大イベントです。安堵町の景観の特色づくりとして、例えば新年を向かえるにあたって町内の主要な神社などに蠟燭の灯りを活用するといったことを、住民と一緒に進めていくことを検討していきます。

モチの木



テイカカズラ



ナデシコ



灯芯ひき



灯芯



和ろうそく



★ 安堵ネットワークプロジェクト

<交通・交流・コミュニティを促進するネットワーク(つなぐ)づくり>

安堵町は現状においては、住民の足としての公共交通機関は必ずしも十分ではありません。住民の交流やコミュニティを促進していくことは、まちの活性化上非常に重要なこととなります。ただし、当町の立地条件からは、田園・街並み風景を歩いたり、自転車に乗ったり、楽しめるまちづくりも重要なことと考えます。

さらに、高齢者のみならず、子どもや、障害のある方などを含め、いわゆる『交通弱者』に対する移動手段を確保していくことは、誰にでもやさしいまちづくりに繋がるものであり、バス・タクシー等を含め、交通弱者にやさしいネットワークづくりを促進していきます。

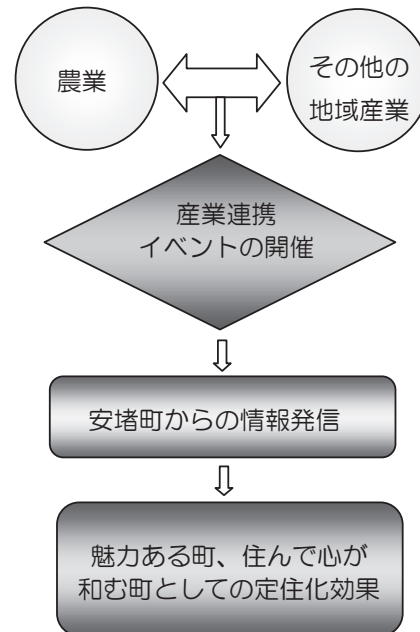
交通計画では、まず、交通空白地の解消を目的にコミュニティバスを運行します。住民のニーズに合わせて、必要に応じて見直しを行い、より利用しやすい公共交通を構築していきます。

★ 産業連携プロジェクト <産業間をつなぎ、新たな産業を興す>

安堵町の基幹産業は農業で、伝統産業の「灯芯ひき」もありますが、我が国の緞帳・マット製造で有名な住江織物等も立地しています。

食のイベントとして現在「ほっと安堵ふれあい広場(朝市)」が開かれています。安堵町の安全でおいしい農作物のPRとともに、B級グルメの創造、それに「模型大会」等を組み合わせた新たな産業連携イベント等を検討していくものです。

現在、(仮称)安堵郡山西スマートICの計画もあり、大阪方面からの交通条件も良くなり、“安堵発”の情報発信は重要な戦略となってきます。



★ まなびのまちプロジェクト <過去・現在そして未来へと時間をつなぐ>

安堵町は、「続日本紀」にも飽波郷として記載があり、聖徳太子にまつわる様々な遺構も残っています。

また、戦国時代に筒井氏一族として活躍した土豪「中氏」や、近代陶芸の巨匠といわれる「富本憲吉」、奈良県の近代史に残る「今村勤三」などの人物を輩出し、多くの遺産が現在もまちにストックされています。

さらには、まだまだあまり知られていないが、安堵町を特色づける様々な文化的ストックが眠っています。

まずは、これらの歴史・文化の発掘と普及に努め、子どもの学校教育や大人の生涯学習プログラムに積極的に取り入れていくとともに、斑鳩町との連携事業や、各種陶芸イベントの開催などを実施し、安堵町の文化を発信する事業として、“まなび”をキーワードにした各種事業展開を図っていきます。

近代陶芸の巨匠富本憲吉



土豪 中氏邸



聖徳太子の開創 極楽寺



安堵町歴史民俗資料館



★ 安堵田園ライフプロジェクト <住民みんなが活躍し、みんなで支え合う>

安堵町は、平成6年をピークに人口減少が続いています。また、少子高齢化の波は本町においても現れており、5人に1人以上の高齢化率となっており、近い将来3人に1人の高齢化率となることが予測されています。

但し、人口減少は我が国全体の傾向であり決して問題があるばかりではありません。今住んでいる人が元気に暮らし、幸せ感が持てるまちであるなら、町外からの新規定住者も生まれてきます。そのためには、田園空間が広がる安堵町で、子どもや子育て世代、さらには高齢者までが生きがいを持って自己実現ができるまちが望まれます。

そのために、“子ども・女性・高齢者”をキーワードに、それぞれが活躍できる場と、それぞれが支え合う仕組みをつくり、“住みたいまち・安堵”のまちづくり環境に取り組みます。

